

長岡市寺泊山田の曲物製作技術(3)

加藤 由美子・足立 照久

Traditional Bent Manufacturing Technology
in Teradomari Yamada, Nagaoka City (3)

Yumiko KATO and Teruhisa ADACHI

長岡市立科学博物館研究報告 第57号別刷 令和4年3月発行

Reprinted from the Bulletin of the Nagaoka Municipal Science Museum
No. 57, March 31, 2022

長岡市寺泊山田の曲物製作技術(3)

加藤 由美子¹⁾・足立 照久²⁾

Traditional Bent Manufacturing Technology in Teradomari Yamada, Nagaoka City (3)

Yumiko KATO¹⁾ and Teruhisa ADACHI²⁾

VI 蒸籠

蒸籠(せいろ)は、食材を入れた曲物を沸かした釜や鍋にのせて、下から立ちのぼる湯気により食材を蒸す調理具である。曲物の底は食材が湯気の熱を受けやすいように底板の代わりに竹の簾(すだれ)を敷いたものと、底板に小さな丸い穴をあけてそこから蒸気を立ちのぼらせる構造のものがある。どちらも機能として変わりはない。竹の簾を敷くタイプでは、底に簾を受けるための棒が渡してあり、2本の棒を平行にさし渡すものと、十字にさし渡すものがある。これまで見てきた篩や裏漉し

と比べると蒸籠は構造が一段と複雑であり、製作者による個体差が見た目にも大きく現れる。蒸籠は家庭では赤飯やお強、団子、饅頭、茶碗蒸しを蒸したり、餅つき用の餅米を蒸す時に欠かせない。そのせいか蒸籠にはハレの日のご馳走のイメージが重なる。家庭以外では菓子屋はもちろんのこと、酒蔵で酒米を蒸す等にも使われる。蒸籠はまた甑(こしき)と呼ばれる。名称としては甑の方が歴史は古く、蒸籠という呼び名が登場するのは江戸時代になってからである。側板を井桁に組む箱形の形状からセイロウ(井楼)と呼ばれたことに始まり、その後蒸籠となったという(岩井1994)。図1に蒸籠の各部位の名称を示した。

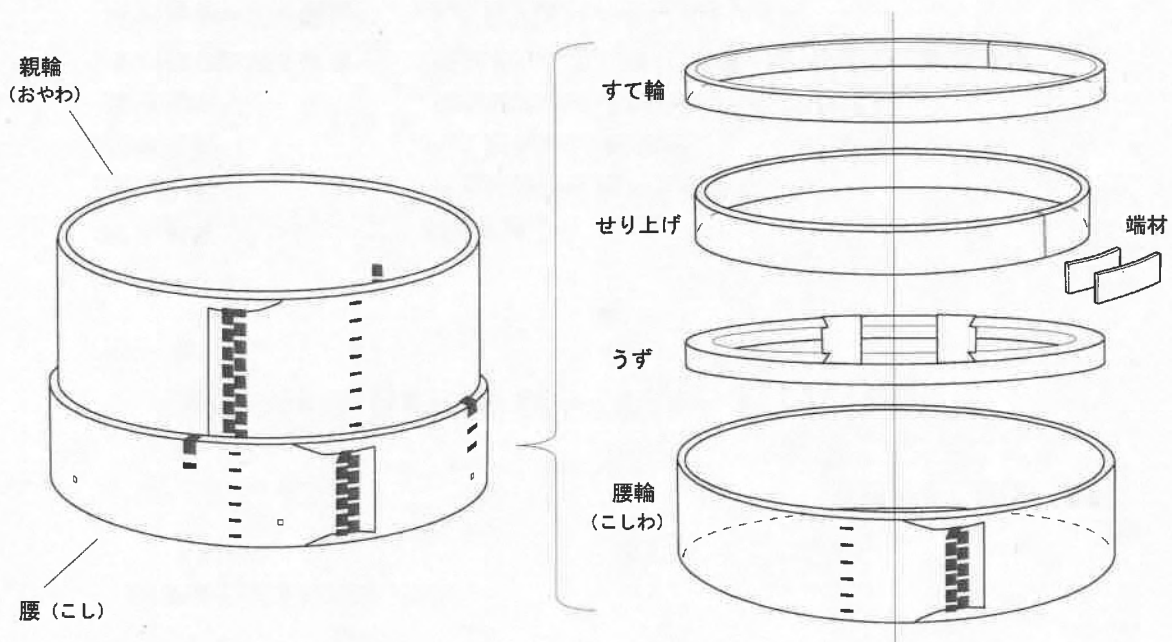


図1 蒸籠の各部名称

1) 長岡市立科学博物館文化財研究室 Cultural Properties Laboratory, Nagaoka Municipal Science Museum
2) 足立茂久商店 篩職人 Shigehisa Adachi Store, Sieve craftsman

(1) 30 cm 用の蒸籠の製作 (図2～31)

【補足説明】(足立)

30 cm 用の蒸籠とは、30 cm のお釜にかける蒸籠という意味です。昔は暮れ(年末)になると、どの家でも餅をついていました。12月になると蒸籠の新調や修理の注文が多くなります。母・道子の話では、かつて蒸籠は問屋さんに多く卸し、先代・一久は暮れ近くなると寝ずに作っていたことがあるほどだそうです。この蒸籠(写真1)の製作にかかった時間は「うず」の完成までに4時間、「腰輪」に「うず」を入れるのに2時間、「腰輪」に「すて輪」を入れるのに1時間半、「腰」に「親輪」を乗せて完成するまでに4時間で、作業日は令和2年8月16日、令和3年4月26日・27日です。

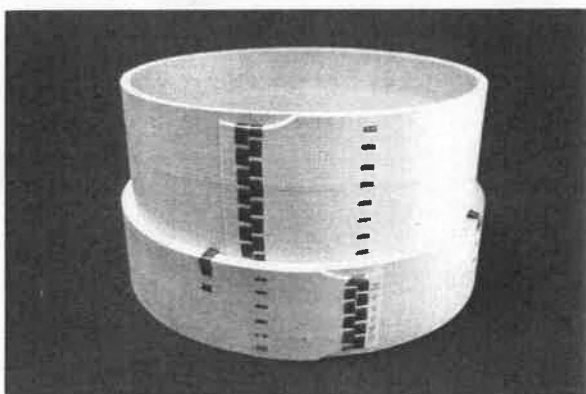


写真1 30 cm 用の蒸籠 (足立照久さん作)

- (1) 北海道の藤本さんが曲げたトウヒの柁目の曲輪(まげわ)です。
- (3) 私が使っている「毛引き」は、一般的に「筋毛引き」と呼ばれるものです。ただ、うちでは「筋毛引き」を「割毛引き」的な使い方をしてるので、ここでは単に「毛引き」と呼ぶことにします。
- (7) 削るのは曲輪の内側のみで、外側は削りません。
曲輪は丸みがあるので、外側の丸みが逃がっている状態で刃物を当てて削るのは難しいです。外側を削る時



写真2 製品の規格を書き留めた製品帳 (10)

- はベルトサンダーを使います。
- (10) 先代の足立一久が書いた「製品帳」(昭和43年11月20日)があります(写真2)。「製品帳」には足立茂久商店の蒸籠の大きさの規準が書かれており、今でもこれを目安に製品を作っています。これによると30cm用の蒸籠の「うず」の外周は98cmとあります(表1)。
- (12) 今回は父から習った通りに作ろうと思っていたので、私が習った時には使っていなかった瞬間接着剤は使わず、木工用ボンドだけで作っています。木工用ボンドは蒸気に当たると糊が切れてしまうので、その点では蒸気で剥がれても乾燥すれば再びくっつく続飯(そくい)が良いと父は言っていました。昔は続飯を主に使っていたのですが、ネズミがかじってしまうので、今はもっぱら木工用ボンドを使っています。
- (17) 一度に大量の「型輪(かたわ)」を作る方法もあります。1枚の「桂(かづら)」を割らずにそのままのり付けして、桜皮(さくらかわ)で綴じた後に6分の幅に割ります。こうすると幅2寸5分の「桂」から

蒸籠のサイズ	「うず」の外周	「親輪」と「腰」を桜皮で留める箇所数	「腰」の竹釘の数
24 cm 用	78 cm	3 箇所	4 箇所
26 cm 用	84 cm	3 箇所	5 箇所
28 cm 用	91 cm	3 箇所	6 箇所 (または5 箇所)
30 cm 用	98 cm	4 箇所	6 箇所
33 cm 用	107 cm	5 箇所	6 箇所
これより大きいもの (例えば尺2の蒸籠など)		6 箇所	8 箇所

表1 足立茂久商店の蒸籠の仕様 (10) (174) (338)

6分の「うず」が一度に4本取れます。

(27) 長さが足りない場合は、他の曲輪でちょうど良いものを探し、同じく6分の幅に割って両端を小刀で削ってから入れます。

(29) 「うず」に使っていたのは柾目の曲輪ですが、「とめ輪」に使うのはヒノキの板目の曲輪です。柾目と板目と比べた場合、柾目の方が長持ちします。板目はきれいで一見丈夫そうに見えるのですが、年月が経つと先に傷むのは板目です。しかし、一時的に力を加えるとなると板目の方が強いです。私が父から習った時にはすでに板目があったので、板目の曲輪を「とめ輪」に使うよう教わりました。昔は柾目の曲輪しかなかったと思います。

(34) どの作業もそうですが、口頭で伝えられてきたもので、「とめ輪」も正式な名称かどうかは分かりません。

(36) 曲輪は両端にいくほど薄くなるように加工してあります。「とめ輪」の端を合わせて「うず」に入れる時に、どちらかの端が極端に厚かったり薄かったりすると弱くなってしまいます。反対に両端を同じ厚さにすると強くしっかり入ります。また、端の厚さをそろえて切らないと隙間ができてしまいます。

(39) 「とめ輪」をどのくらい長く切るかは「うず」にする曲輪の隙間を見て決めます。「とめ輪」を仮入れた時に「型輪」に入れた「うず」の隙間が多くある場合は長めに切ります。長いと爪で付けた印から1cmくらい伸ばして切る時もあります。

(43) 「うず」全体を持って伸び縮みさせながら、隙間を詰めるように押し込んでいきます。指で押しただけでは入らない場合は拳で叩き入れます。打ち棒で叩いて無理矢理入れようとするとう壊れる可能性があるの

で、「とめ輪」をはめ込む作業は手だけで行います。「うず」を作るのは力の要る大変な仕事です。父が若い頃にはうちにも他に何人か職人さんがいましたが、当時父が一番若かったので「うず」ばかり作られて難儀くて嫌だったと生前に話していたと記憶しています。

(44) この時、1本目の「とめ輪」は最後まで落としきらず、1/3～半分くらいまで入っている状態です。1本目の「とめ輪」はあまり浅いと外れてしまいますし、深すぎると2本目が強く入らなくなってしまいます。1本目を入れきった後に2本目を入れようとすると、2本目が緩くなり、1本目と2本目の間に隙間ができてしまいます。そのため、1本目を浮かせた状態で2本目を入れ、この2本の「とめ輪」を一緒に入れることでしっかり入るようになります。

(46) 2本目の「とめ輪」の合わせの位置は、1本目の合わせ目を横(左手側)に置いた時に、1本目の「とめ輪」の合わせからなるべく遠い方の「棧木」が入る所に決めます(図2)。

(52) 拳より打ち棒の方が強い力が加わります。2本の「とめ輪」を打ち棒で叩いて一緒に入れることでしっかりした「うず」を作ることができます。篩や裏漉しも同じで、打ち棒で叩いて入れたものはメサシを突っ込んで合わせ目を壊さないと外せないほど強く入ります。

(55) 「棧木(さんぎ)」を用意して「うず」に乗せる前に、「うず」の縦横の直径をさし金で測ります。そして「うず」の縦の直径が横より1分(約3mm)ほど短くなるように、「うず」の形を手で整えます(図2)。これは「棧木」が入った時に「うず」が縦方向に伸びることを想定してのことだと父から習いました。「とめ輪」を入れた「うず」はしっかりしていますが、力を入れて押すとまだ動いて伸び縮みするので、長さがちょうどよくなるよう手で形を整えます。

(56) 「棧木」に関しては、私は大きい製品には若干幅広の、小さい製品には若干幅が狭いもので良いと考えて、製品に合わせて幅を変えて製材しています。製品の直径が尺だったら棧木は1寸幅、8寸だったら8分幅といったように、およそ1/10幅で作っています。材料としてツガを使う理由は、たまたまうちに「棧木」用にあるのがツガだったというだけです。今使っているツガは比較的細工しやすいです。「棧木」はメザラが乗っかって落ちなければいいという部品なので、他の木であっても問題はありません。

(57) 「棧木」の配置については、「棧木の隙間は三分分か、三分分より真ん中を狭

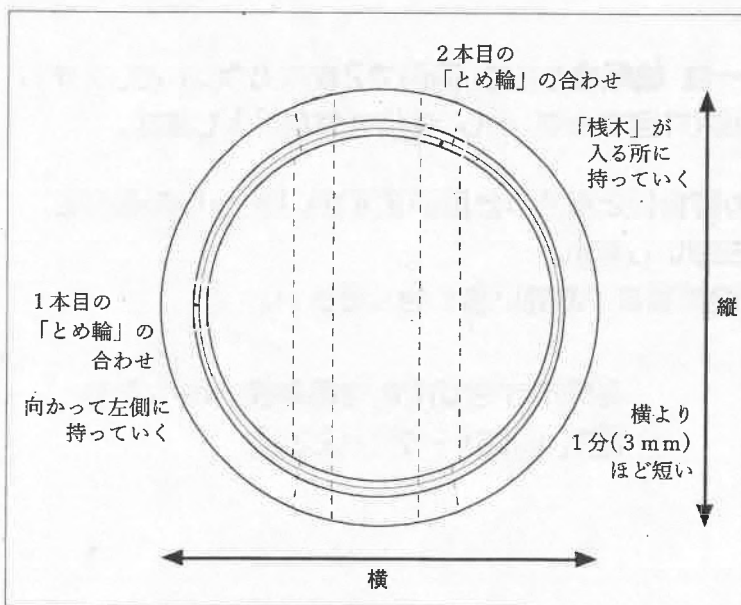


図2 「とめ輪」の合わせの位置と「うず」の縦横の長さ (46) (55)



図9 30cm用の蒸籠の製作(1)



図10 30cm用の蒸籠の製作(2)